

NPO 朝熊山麓に花を咲かす会

伊勢市の朝熊山麓に入口にある「花の広場」は、NPO 朝熊山麓に花を咲かす会のメンバーが20年以上前からボランティアで管理する無料の花畑です。春になると、ピンクのグラデーションが広がる花畑をはじめ、菜の花や紫色のシヨカツサイ、ユキヤナギに青と白の小さなメモフィラが咲き誇り、一年で最も色鮮やかな季節を迎えます。



代表 岩崎 理(ただし)さん

お問い合わせ

「NPO 朝熊山麓に花を咲かす会」
伊勢市浦口2-8-18
TEL 0596-24-1790

朝熊山を背景に、駐車場を完備する県営サンアリーナの一角に広がる「花の広場」は来場者を笑顔にする憩いのスポット。伊勢二見鳥羽ラインの朝熊東ICからすぐとアクセスもよく、周辺には遊具や芝生広場のある朝熊山麓公園、サッカー場の設備も整い、美しい花の彩りを求めて多くの人々が訪れます。花を管理する「NPO 朝熊山麓に花を咲かす会」では、この景色を後世に引き継いでいきたいと、7人の仲間と一年を通じて活動を行っています。代表の岩崎さんにお話を伺いました。

—活動のきっかけを教えてください。

でも、西日本一をめざしていこう」と平成20(2008)年から花桃を植え始め、今では3000本になりました。サンアリーナ企業団地にも広げて、また朝熊山麓公園やサッカー場の前にも植えました。

—花桃は一色ではなく、赤、ピンクに白と、3色のグラデーションが圧巻ですね。春以外の楽しみを教えてください。

岩崎：夏のあいだは、オレンジ色のキバ



可憐な夏の彩り



春の花桃の景色*



設置された募金箱



種を採る作業

ゴールドは止まりました。花期がずれてしまい、春に咲く花の植え付けができなくなってしまうのです。また水やりが少なくてもいい種類の花を選んで、花期の長いものを植

岩崎：賑わいのある元気な伊勢のまちづくりに貢献したいと、平成16(2004)年3月3日の桃の節句に会を発足しました。元々は「まつり博三重'94」で花の広場として公開されていた場所だったので、その後しばらく放置されていたので、当時はススキや背丈以上の雑草が生えている状態でした。まずは花畑の開墾から。草を刈って、土に混じている石を取り除いてから耕しました。が、土建業の知り合いや農家の方、かつての同僚も含め、100人近い人たちが手伝いに来て、助けてくれました。種まきも同時に進めて、なんとか一年目にコスモスを咲かせることができました。

—春といえば桜や梅を思い浮かべます

ナコスモスを中心に、紫色のサルビアと黄色のメランポジウムの花の種を5月から6月に蒔いています。長く花を楽しんでもらえるよう、時期をずらして工夫しています。5千平方メートルある広場のうち、2千平方メートルの花畑に、4万株を咲かせました。

—花を咲かせる苦労はなんでしょうか。

岩崎：温暖化でなかなか寒くならないので、当初植えていたコスモスやマリー

えています。伊勢市役所や社会福祉協議会に種の購入を助けてもらっていますが、より多くの花を咲かせたいので、種採りもしています。

結成当初は50人ほどいたメンバーも、暑中、寒中、寒い中での作業は体に応えますから、段々と減っていききました。それでも新たに手伝ってくれる人もいて、現在は男性3人、女性4人で活動中。平均年齢73歳です。草刈りや杭打ち、肥料まきと、花の生長に合わせて作業は皆で分担していますが、私自身は年間150日ほどこちらで作業しています。たくさんの方にきてもらうことが、活動の励みになっています。一緒に花を咲かせてくれる仲間を募集しています。

—誰でも自由に散策できる「花の広場」は、入園無料ですが、ボランティアでの花畑の運営には費用がかかるため、募金箱を設けました。後世に残せる花の名所をと、雨の日も風の日も、花の生長を見守り、地域の人たちに潤いある空間を提供しています。

インタビュー：中村 元美



近くの朝熊山麓公園

花の管理は雑草との戦い

*印の写真は取材先から提供していただきました